

セッション	C. 語彙論：語の用法 (2014.3.22 於 北京日本学研究中心)
タイトル	日本語形容詞の機能 -コロケーションの観点から-
著者名(所属)	秋元 美晴 (恵泉女学園大学)
連絡先 Eメール	makimoto@keisen.ac.jp
<p>論文内容</p> <p>(背景および研究目的)</p> <p>形容詞の研究は、動詞や名詞といった品詞の研究に比べて、それほど多いとはいえない。本発表はそのギャップを埋めるための一つの試みである。形容詞の機能は、連体修飾、述語、連用修飾という3つに分けられるが、その中で、連体修飾および述語的機能が形容詞本来の働きであることを鑑みて、本発表では連体修飾となる機能(装定用法)と述語となる機能(述定用法)を扱うことにする。具体的に頻度の高い形容詞を取り上げることにより、その意味・用法を調査し、個々の形容詞の本来の働きをコロケーションの立場から明らかにすることを目的とする。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>資料としては、『現代書きことば均衡コーパス』(BCCWJ)を用い、2005年に発行された1年分の雑誌839,952語の中から、秋元(1996)に基づき、そこに現れた頻度の高い形容詞21語(高い、多い、強い、難しい、若い、厳しい、大きい、安い、悪い、長い、小さい、激しい、いい/良い、少ない、低い、深い、近い、弱い、新しい、美しい、悲しい)を対象とし、それらの形容詞の装定用法と述定用法のデータを収集し、調査・検討した。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>例えば、「強い」「若い」「厳しい」の3つの形容詞を調べた結果、「強い」は装定用法71例、述定用法150例、「若い」は装定用法83例、述定用法6例、そして、「厳しい」は装定用法37例、述定用法26例となった。これらの機能上の分布の違いは、個々の形容詞の意味に依存する。すなわち「強い」は何において強いのかという点で、最も情報を必要とするのに対して、「若い」はそれ自身の意味で充足されているため、それ以上の情報は必要としない。そして、「厳しい」はその中間に位置すると考えられる。以下にその例をあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ですから、逆に<u>気は強い</u>と思います。」(『女性セブン』1月6・13日号) ・「<u>若い者</u>に負けたくない気持ちはある。」(『大相撲』2月号) ・「当時の<u>スケジュール</u>が今ほど<u>厳しく</u>なかったことが容易に想像できるだろう。」(『WORLD SOCCER GRAPHIC』10月号) <p>(結論)</p> <p>形容詞によっては、装定用法が多いもの(「若い」など)、述定用法が多いもの(「強い」など)があり、さらに二つの用法がほぼ均等に現われるもの(「厳しい」など)もあることがわかった。それらに関与する要因としては、形容詞の意味が主観的になっているか、客観的になっているかの相違、また、修飾される名詞、あるいは主語となる名詞の特性(具体名詞/抽象名詞の区別など)によるものと考えられよう。さらに、情報量の多少は、形容詞だけが単独で現れるのではなく、種々の要素を伴って現れることと関係する。こういった事実は、コロケーション的な観点からはじめて明らかになることであり、個々の形容詞の機能の一層の解明につながることとなろう。</p>	
<p>参考文献</p> <p>秋元美晴(1996)「形容詞の装定用法と述定用法」『林巨樹先生古希記念甲戌論集』武蔵野書院</p> <p>北原保雄(2010)『日本語の形容詞』大修館書店</p> <p>西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版</p> <p>八亀裕美(2007)『日本語形容詞の記述的研究 - 類型論的視点から - 』明治書院</p>	